

日本民间故事选



·5
6

外语教学与研究出版社

日汉对照注释读物

日本民间故事选

蔡晓军 注译

外 语 学 与 研 究 出 版 社

日汉对照注释读物
日本民间故事选
蔡晓军 注译

外语教学与研究出版社出版

(北京市西三环北路19号)

上海印刷厂 排版

北京怀柔县平义分印刷厂印刷

新华书店总店北京发行所发行

开本787×1092 1/32 4.75印张 86千字

1988年2月第1版 1988年2月北京第一次印刷

印数1—5,000册

ISBN7—5600—0364—8/H·143

定价：1.35元

前 言

为了帮助初学者提高阅读原著的水平，我们选编了注释读物《日本民间故事选》，其中大多数是日本著名童话家浜田广介的作品。他的民间故事主题鲜明，内容丰富，有着深刻的教育意义。特别是语言表现，简练、生动，所以深受少年儿童的喜爱。

本书列举了语法现象和单词，并附有译文，供大家阅读时参考。仅望初学者通过由浅入深的文章阅读，不断提高日语水平。

由于编者水平有限，难免有一些错误，敬请广大读者批评指正。

蔡晓军

1986年7月

于北京

目 录

- 一、桃太郎..... (1)
- 二、猴子和螃蟹..... (22)
- 三、开花爷爷..... (40)
- 四、“哇哇山”..... (57)
- 五、割舌雀..... (75)
- 六、老鼠出嫁..... (94)
- 七、一寸法师..... (103)
- 八、海蜃的差事..... (115)
- 九、碗姑娘..... (123)
- 十、黄莺姑娘..... (136)

一、もも太郎

浜田广介

やまもりの きびだんご

むかしむかし、あるところに①おじいさんとおばあさんと
がありました②。

その日も③朝から④いい天気、おじいさんは、しばかりに山
にでかけていきました⑤。おばあさんは、せんとくに川にでか
けていきました。

きものよごれをあらいおとして、おばあさんは、それをじ
ゃぶじゃぶすすいでいました。

すると⑥、川の上のほうから、なにかが⑦だんだんながれて
きました⑧。おばあさんはすすぎものの手をとめて、じっと
見ました。

「まあなんと大きなももだよ⑨。」

いかにも⑩それはめずらしい大きなももでありました。

どんぶらこっこ、すっこっこ、どんぶらこっこ、すっこっこ
……ういたりすこししずんだりして⑪ゆれながら⑫ももはそ
ばまで⑬やってきました。

おばあさんはからだをまえにのりだして、手をだしました
が⑭、とどきません。そこで⑮いそいでやなぎのえだをほきん
とおって、ももをおさえてひきよせました。

「いいひろいもの、どこの村からながれてきたのか⑯しらな

いが、ひとりで⑩木からとれたのかしら⑪。それとも⑫風にぐらっとゆれて⑬おちたのかしら。

えだからとれておちたももなら⑭、すこしは⑮きずがついているかもしれません⑯。おばあさんは、ぐるっと見ました。もものどこにもきず一つついていません⑰。

きれいなももでありました。

おばあさんはよろこんで、ももをかかえてかえりました。おじいさんは、ばんがたにしばをかついでかえってきました。「おじいさん、これを見なさい⑱。」

おじいさんは、ももを見てびっくりしました。

「たしかにももだが、これでは⑲あんまり⑳大きいよ。」

おじいさんは、そういつてもってみました㉑。

「おや、またおもい。これではなんともおもすぎる㉒。」

「でも㉓、おじいさん、ももならきつとおいしいよ。きってたべてみましょうよ。」

「それもよかろう。」

おばあさんは、だいどころから、ほうちょうをもちてきました。大きなももをきろうとしました㉔。すると、まだきらないうちに㉕、ももはひとりでわれました。ぱっかりわれて、ももの中から男の子、はだかんぼうが、手をあげてぬっとでました。

「やあやあ、これは。」

「あれ、まあ、これは。」

これはこれとはと㉖おどろいて、二人は口をぽかんとあけてむきあいました。かおとかおとを見あわせました㉗。

二人とも㉘もううれしくてなりません㉙。子どものいない㉚二人のあいだに、いまその子がでてきました。

おばあさんがいいました。

「なんとなまえをつけましょう。」

「ももの中からでた子だよ。もも太郎だよ。」

そう、おじいさんがいいました。

もも太郎は、うまれた日からひとりで立って、ずんずんと大きくなっていきました。ちからがあって、ぞうさなくおもいものをもちあげました。おまつりの日に、おじいさんがもちをつこうと、うすをどまにだそうとしました。すると、すぐにもも太郎がそばにきて、うすをころりところがしました。

「おじいさん、わたしがつくよ。」

そういって、木のきねをかるがるとうごかしました。

ちからもちでも②もも太郎は手あらいことは③やりません。おとなしい子で、おじいさんおばあさんのいうことをいつもすなおにきいていました。

「ほんとうに太郎はつよい子、やさしい子だよ。」

そういっておじいさんもおばあさんも④ほめていました。

すると、やさしいおとなしい子のもも太郎が、ある日、ひょっこりいいだしました。

「おじいさん、おにが島には、いまでも④おにがいるでしょう。」

「いるとも②いるとも、うんという。」

「いまでもらんぼうしていきましょう。」

「うん、そうらしい④。ときどきでてきて、そこらをあらしていくらしい。」

「そんなら④、一どころしてきましょう。らんぼうされては⑤、みんながこまる。こまるのをだまってみてはいられません⑥。でかけるわたしに⑦、だんごをつくってください

な④。」

「そうか。そうか。でかけるか④。」

おじいさんは、がってんしました。こなをはたいて、おばあさんにいいました。

「だんごをつくってやりなさい④。」

おばあさんもがってんしました。こなをまるめて、だんごをたくさんこしらえました。さらにやまもりのせました。もうその上にはのせられません。そこでこんどは、はちにやまもりもりあげました。もうその上にはのせられません。

「こんどはなににいれようか④。」

そう、おばあさんがいいました。

「もうもうたくさん、あとは一つもいりません。」

もも太郎は、そうってだんごをふくろにつめました。日本一のきびだんご、たべるとほおがおちそうな④おいしいだんごでありました。

いわ山のおにのごてん

だんごをしょって、それから④こしにもぶらさげて、もも太郎はうちをでました。いさんでみちをいきました④。むこうから犬がきました。犬はとことこちがづいて、しっぽをふりふりいいました。

「日本一のきびだんご、一つください。おともしましゅう④。」

もも太郎は、がってんしました。だんごを犬にやりました。だんごをもらってよろこんで、犬はけらいになりました。

しばらくいくと④、むこうからさるがきました。さるもとことこちかよってきて、おじぎをしながらいいました。

「日本一のきびだんご、一つください。おともしましょう。」
もも太郎は、がってんしました。さるにもだんごをやりま
した。だんごをもらってよろこんで、さるもけらいになりま
した。

しばらくいくと、林のそばの木の上にきじがいました。き
じは、ちかづくもも太郎、それから犬とさるとを見ると、はね
をならしてとんできて、みちにとまっていた。

「日本一のきびだんご、一つください。おともしましょう。」
もも太郎は、がってんしました。きじにもだんごをやりま
した。だんごをもらってよろこんで、きじもけらいになりま
した。

丘をこえ、森をぬけ、のはらをすぎて海ばたのところにでま
した。小さなふねがうかんでいました。ふねのほが風にふか
れてふくれていました。犬、さる、きじをひきつけて、太郎は
ふねにのりました。

そちらは東、こちらは西、あちらは南、そちらは北、どちらを
むいても⑩青い海、どこまでいってもひろい海、あたまの上は
青い空、ふねはずんずん海をわたっていきました。するとむ
こうに島が一つ見えてきました。

その島がだんだんにちかづきました。いわ山のけわしいが
けが見えました。そのいわ山におにどもの大きなごてんがた
っていました。

「おにどもがどうしているか、ひるねでも⑩しているだろ
うか。さぐってきましょう。」

そういって、きじがばたばたとびたちました。ふねをこぎ
よせ、おかにあがってもも太郎は、おにのごてんにちかづきま
した。がんにょうなてつの門、しっかりとしまっていました。

けれども、さるはするすると門をのぼって中にはいっていききました。中から門のかんぬきをひきぬきました。太郎は、門をおしあげました。ながいかたなをひきぬきました。かたなをふって大音あげるもも太郎。つづいてたかくほえる犬。

おにどもは、びっくりしました。

「それたちむかえ。」

かなぼうをてんでにまわしておにどもはむかってきました。けれども、つよいもも太郎、はしこいさると犬ときじ、そろってどっとせめこみました。せめたてられておにのなかまはしりごみしました。たいしょうおにもだんだんにおいまくられて、かなぼうをぼったりとなげだしました。

「こうさん、こうさん、もうらんぼうはいたしません。いのちばかりは^⑩おたすけください。」

たいしょうおにはそういって、りょう手をついてあやまりました。

「わるいことをもうしないなら、ゆるしてやろう。」

「はい、もうけっしていたしません^⑪。」

もも太郎は、あやまるおにをみんなゆるしてやりました。たいしょうおにはよろこんで、金、ぎん、さんご、あやにしぎ、玉のさかずき、るりのたま、まださまさまのたからもの、みごとなものをさしだしながらいいました。

「おかえりのおみやげに、どうぞおもちくださいまし。」

「ありがとう。それでは^⑫もらっていきましょう。」

もも太郎は、くるまの上^⑬にたからものをつみあげました。

「えんやらやあ。えんやらやあ。」

犬ときじとがいっしょにくるまをひきだしました。

さるがあとからおしました。

海ばたにふねがまだうかんでいました。もも太郎は、ふね
いっぱいいたからものをつみこみました。

青い海、ひろい海、もう一ど海をわたって、犬さるきじをお
ともにつれてもも太郎は、めでたくうちにかえりました。

おじいさんは、大よろこび。

おばあさんも、大よろこび。

参 考 译 文

桃 太 郎

满满的黄米饭团

很久很久以前，有个地方住着一位老爷爷和一位老奶奶。
这天一清早，天气晴朗，老爷爷上山砍柴，老奶奶到河边洗
衣服。

老奶奶正使劲地洗着脏衣服。

这时，从上游慢慢漂过来一个什么东西，老奶奶停下来，盯
住细看。

“啊！多大个儿的桃子啊！”

果然是个少见的大桃子。

扑通通，扑通通……桃子一起一伏，摇晃着飘到老奶奶附近。
老奶奶向前探出身，伸出手，可还够不到。她急忙折了一枝
柳条，把桃子按住，勾到身旁。

“捡着了，可它是从哪个村里漂过来的呢？是自己从树上掉
下来的，还是被风刮落的？要是树上掉下的总该带点伤吧。老奶
奶把桃子整个儿看了一遍，可桃子哪儿也没坏。

桃子真漂亮。

老奶奶高高兴兴地抱着桃子回家了。

傍晚，老爷爷砍柴回来了。

“老头子，你看这个。”

老爷爷一见桃子，吓了一跳。

“真是桃子，就是太大了呀。”说着，他抱起来掂了掂。

“哎哟，还挺沉，这也太重了。”

“不过，老头子，只要是桃子准好吃。切开尝尝吧。”

“那也好。”

老奶奶从厨房拿来了菜刀，准备要切大桃子。可还没等刀下去，“叭”地一声，桃子自己裂开了，里面突然跳出一个光身子、举双手的男孩。

“哎哟，哎哟，怎么回事？”

“哎呀，哎呀，怎么回事？”

老两口吃惊地张开嘴，面面相觑。

老两口高兴得不得了。无儿无女的他们，现在有了一个孩子。

“起个什么名吧？”老奶奶说。

“从桃子里出来的，就叫桃太郎吧。”老爷爷回答说。

桃太郎出来的第一天，就能自己站立，眼看着长大了。他力气十足，重重的东西，毫不费事地就能举起来。过节了，老爷爷想搞粘糕，正要把石臼搬到土屋里，桃太郎马上跑过来，一下子就把石臼滚起来。

“爷爷，我来捣。”说着，拿起木杵轻快地捣起来。

桃太郎有劲儿，可从不干坏事。他人品老实，还十分听老俩口的话。

“太郎真要强，心眼好。”

老两口都夸他。

有一天，善良、老实的桃太郎突然问，

“老爷爷，鬼岛上现在还有鬼吗？”

“有啊，有啊，有的是。”

“还在干坏事吗？”

“是啊。听说还在干坏事。经常出来，骚扰那一带。”

“那就得教训教训它。魔鬼来捣乱，大家受苦。大家为难，我不能看着不管。给我准备些饭团，我要去。”

“怎么？你要走！”

老爷爷理解桃太郎的心情，倒空面袋，对老奶奶说：

“你给他做些饭团。”

老奶奶也同意了。她和好面，做了很多饭团，盘子里，大碗里都装得冒了尖。

“还往哪儿装？”老奶奶问。

“够了，一个也不要了”。桃太郎说着，把饭团塞进口袋，日本第一的黄米饭团，吃一口要香掉下巴的。

岩石山上的魔鬼宫殿

桃太郎身背饭团，腰间也塞着饭团，离开了家。他奋勇向前，不停地赶路。一条狗从对面跑来了，一蹦一跳地凑近，摇着尾巴说：

“日本第一的饭团，给我一个吧！我陪你一起去。”

桃太郎答应了，给了它一个。狗得到饭团，高兴地做了太郎的随从。

走了一会儿，对面又跑来一只猴子，蹦蹦跳跳来到跟前，一边行礼一边说：

“日本第一的饭团，给我一个吧！我同你做个伴儿。”

桃太郎答应了，也给了它一个。猴子得到饭团，高兴地做了

太郎的随从。

又走了一会儿，树林旁的树上有一只野鸡看见走近的桃太郎和狗、猴子，便张开翅膀飞下来，停在路上。野鸡说：

“日本第一的饭团，给我一个吧！我跟着你。”

桃太郎答应，给了它一个。野鸡得到饭团，高兴地做了太郎的随从。

他们越山丘、穿森林，走过了平原，来到了海边。一条小船停在岸边。船帆被风吹得鼓鼓的。桃太郎带着狗、猴子、野鸡，上了船。

东、西、南、北，四周是一片碧兰的、茫茫的大海。头上晴空万里，小船破浪向前。不多时，前方出现了一座小岛。

渐渐地靠近小岛了。石山上的悬崖峭壁映在面前。规模宏大的魔鬼宫殿就建在岛上。

“魔鬼们在干什么？是在睡午觉？我去探探动静。”

说着，野鸡扑打着翅膀飞起来了。把船划近岸边，桃太郎登上土坡，靠近了宫殿。结实的大铁门紧锁着。猴子敏捷地爬上去，钻到里面，拉开了门栓。桃太郎破门而入，抽出长刀，挥舞着，高声呐喊。紧跟着狗也狂吠起来。

群魔众鬼大吃一惊，嚷着：

“冲上去！”各自挥动铁棍前来迎战。但是，力大无比的太郎，聪明的猴子和狗、野鸡一齐冲上去。众魔鬼们遭到连续的攻击，开始后退。鬼大王被追得抱头逃窜，扔下了铁棍。

“投降！投降！再也不干坏事了，饶命！”

鬼大王双手伏地，赔罪求饶。

“要是再不干坏事，就饶了你。”

“是，决不再干！”

桃太郎饶恕了这些伏罪认输的众鬼。鬼大王高兴地献出了

金、银、珊瑚、织锦缎、玉杯、琉璃珠等许许多多的珍宝奇物。

“就算是我送你回家的礼物，请带回吧！”

“谢谢！那就带走了。”

桃太郎把珍宝装上车。

“哎哟，哎，哎哟，哎。”

狗和野鸡一同在前面拉着，猴子随后紧推。

那条船还停在岸边。太郎把珍宝装满一船。

他带着伙伴一狗、猴子、野鸡，再次乘船渡过茫茫大海，平安抵家。

老爷爷，老奶奶都十分高兴。

注 释

① [あるところに]

“ある”是连体词，意为“某，有的”。

“に”是格助词，表示场所。

△ある日/某一天。有一天。

△わたしは東京にすんでいます。/我住在东京。

② [おじいさんとおばあさんとがありました。]

“と”是格助词，表示并列。

“ある”一般表示无生命的植物、事物的存在，故事中也用来指人。

△机の上に本とちょうめんとえんぴつ(と)があります/桌上有书和本、铅笔。

△昔昔、欲ばりおじいさんがいました/从前，有个贪心的爷爷。

③ [その日も]

“も”是副助词，表示不例外。

△今日もまた雨です/今天又下雨。

④ [朝から]

“から”是格助词，表示时间、数量、地点等的起点，同汉语的“从…”，常与“まで”相呼应。

△学校は九時から始まります/学校九点开始上课。

- ⑤ […しばらくりに山にでかけていきました。]
 第一个“に”表示目的,第二个“に”表示方向。
 “い”为补助动词,表示动作移远,或某种状态不停地进行。
 △図書館へ本を読みに行きます/去图书馆读书。(目的)
 △田中さんは外国にでかけて五年も帰ってこない/田中去国外,五年多未归。(方向)
 △かいだんをおりていく足音/走下楼梯的脚步声。
- ⑥ [すると] 接续词,表示前后事情的自然连接。
 △おじいさんが竹を二つにわりました。すると、中からかわいい女の子がでました/老爷爷把竹子破成两半,于是里面出现了一个可爱的女娃娃。
- ⑦ [なにかが]
 “か”是副助词,多接疑问词,表示不肯定。
 △どこからか歌声がきこえてきました/不知从哪儿,传来了歌声。
- ⑧ […ながれてきました]
 “动词连用形十てくる” “くる”为补助动词,表示动作移近,或有变化、发展的状态。
 △暑くなってきた/热起来了。
- ⑨ [なんと大きなももだよ]
 “なんと”是副词,意为“多么”。
 “よ”是终助词,表示感叹、断定、命令等语气。
 △なんときれいな花だろう/多美的花啊。
 △花はとてもきれいよ/花真美呀。
- ⑩ [いかにも] 副词,意为“确实,的确”等意。
 △いかにもきれいだ/确实好看。
- ⑪ […ういたり、すこしすんだりして]
 “たり”是接续助词,接用言、助动词连用形(そうだ、ぬ除外)和五段动词音便,表示两个动作交替发生。同汉语的“又…又…”。
 △動物園のくまは、おりの中を行ったりきたりする/动物园里的狗熊,在笼里走来走去。
- ⑫ [ゆれながら]
 “ながら”是接续助词,接动词连用形,表示两个动作同时进行,同汉语的“一边…一边…”。
 △話をしながら散歩する/边聊天边散步。
- ⑬ [まで] 副助词,表示时间、数量、地点等的终点,同汉语的“到…”,常与“から”相呼应。